

第2回沼津市新中間処理施設整備基本構想検討委員会議事録

(先進施設視察)

開催日時

平成25年8月1日(木) 午前11時30分から午後3時30分まで

開催(視察)場所

川崎市王禅寺処理センター(焼却施設)

ヨネッティー王禅寺(余熱利用施設)

議事事項

- (1) 第1回議事録について

先進施設視察

- (1) 王禅寺処理センター
- (2) ヨネッティー王禅寺

出席委員(9人)

欠席委員(3人)

市側出席者(6人)

1. 議事

【第1回議事録について】

第1回沼津市新中間処理施設整備基本構想検討委員会議事録（案）を事務局で作成し、事前に各委員へ送付の上確認いただいたところ、内容の修正等の意見が無かったことから、案のとおり議事録を承認。

2. 王禅寺処理センター視察

【施設説明】

川崎市職員から川崎市のごみ処理の流れについて説明を受け、王禅寺処理センターの施設概要及び建設経過に関する映像を視聴。

【施設見学】

プラットフォーム、中央制御室及び発電設備等、川崎市職員の案内のもと施設を見学。

【質疑応答】

○川崎市職員

まず先に沼津市より予め頂いた質問事項についてお答えする。

熱回収量確保や市民負担の軽減の検討などについて、川崎市では川崎市一般廃棄物処理基本計画 かわさきチャレンジ3Rを策定し、これに基づき3Rに取り組んでいるところであり、熱回収量の確保、市民負担の軽減については特に行っていない。

事業方式の選定にあたりPFI方式の検討について、ごみ焼却施設は、既に事業が進んでいたため、導入可能性調査を行っていない。資源化処理施設は検討を行ったが、最終的にPFIの導入には至らなかった。

ごみ処理以外の施設や地域の環境整備、地元還元については、王禅寺処理センターの建替えはリサイクルパークあさお整備事業の一環であり、川崎市北部地域の総合的廃棄物処理施設の整備を目的としている。ごみ焼却処理施設以外では、資源化処理施設と環境学習施設、健康とふれあいの広場等の整備を予定しているところである。還元施設としては、既存の余熱利用市民施設（ヨネッティー王禅寺）として温水プール及び老人休養施設等があるが、本敷地外の環境整備は特に行っていない。

発電については平成24年度から施設稼働しており、まだ1年間の実績しかないが、発電量は5,238万5千kWhである。売電収入については、今年度から固定価格買取制度を導入したことにより、6月から売電先が変わったため、前年を上回る収入が見込まれている。

施設の特長や特に配慮された事項等としては、市街化が進み住宅が近接しているため、建物の景観計画に配慮している。具体的には工場的な外観を排除するようにしている。それと同時に、緑が非常に多い地域でもあるため、川崎市のデザイン提案制度を活用し、周辺環境に調和するようにアースカラー、自然色と言われる色合いを基調とし、3つの案を提示して、近隣の住民投票という形で色彩計画を決定した。

○委員

売電先はどこか。

○川崎市職員

昨年までは東京電力と契約していたが、今は入札により別の民間事業者になっている。

○委員

健康とふれあいの広場とは公園みたいなものか。

○川崎市職員

開放広場として以前からあり、平成 19 年までは開放していたが、工事が始まったので閉鎖している。

○委員

ミックスペーパーの資源化用途は製紙原料か、それともエネルギーか。

○川崎市職員

製紙材料である。トイレットペーパーになっている。

○委員

メーカー選定において、どこが良かったのか、どういう選定したのか。

○川崎市職員

一般競争入札のため落札金額が一番安かったというところである。ただし、入札の前段で過去の実績や見積仕様書を各メーカーより提出させ、審査合格した数社で入札を行い一番低い金額を提示したメーカーを落札者として決定した。

○委員

選定したメーカーのどういうところが良かったか。

○川崎市職員

結果論であるが、川崎市には処理センターが4つあり、大手2社による独占のような状況であったため、新しいメーカーが受注したことが他メーカーの刺激になっている。

○委員

川崎市では焼却灰や飛灰をリサイクルせず、埋立するという方針か。

○川崎市職員

現在、再利用とかスラグ化などについて考えてはいないが、今後は検討していく必要もあると考えている。

○委員長

焼却炉では要求水準書を作り、メーカーがそれに準じた提案をするという流れになるが、より良い要求水準書とするための反省点などがあれば教えて欲しい。

○川崎市職員

1炉停止した2炉運転の状態でも発電機の定格能力の7,500kW近く発電できる状態なので、もう少し定格能力が大きい発電機でも良かったかと思う。発電端効率(※)も設計書上は10%以上となっているが、実際には15%以上出ており、場合によっては19%となることもある。

ただ、今後のごみが減少する傾向にあるため、今の時点では少し多くなっているが、これからは安定した数字になってくるかも知れない。

※ 「発電端効率」とは、投入したエネルギー（この場合、ごみの燃焼により得られた熱量）に対して発電機が発電した電力量そのもので効率を計算した値。

○委員

建設するに当たって、近隣住民との話し合いやアセスメントはあったのか。

○川崎市職員

焼却場の建替に際しては、川崎市のアセス条例に則って手続きをしている。

平成13年度に環境配慮計画書を出し、その後、方法書・準備書の段階ごとに説明会をやっている。また、ここは行政区界に近く、隣接市の住民の方から、煙突に対する景観上の配慮をしてほしい等の要望があった。

○委員

平成24年度のごみの焼却量は。

○川崎市職員

約9万トン。計画では9万7千トンであった。

○委員

本日トラブルがあり、現在1炉で運転しているそうだが、今回のトラブルはこのプラントが稼働して以来初めてのことか。

○川崎市職員

初期運転でのトラブルとして、数回見られたが、改善策を講じ対策を進めているところ。

○委員

どのような不具合かまだ分からないのか。

○川崎市職員

火格子の落下トラブルで、現在対策工事を順次進めている。

○委員

今までの緊急で停止したトラブルについて、その問題は解決しているのか。

○川崎市職員

まだ解決していない。ごみのカロリーが設計より高すぎるようだ。

○委員

燃焼管理や温度管理、空気量の対応とか、そういう操作上での対策はしたのか。

○川崎市職員

ごみのカロリーが想定より高く、燃え過ぎているらしいので、運転管理の方で少し抑え気味に運転しているが、実際にその効果が出ているかどうか把握できていない。後ほど確認する。

(注：後日、川崎市より「現在、運転管理により改善されている。」との回答を得た。)

○委員

そういうことはよくあるのか。

○川崎市職員

新しい施設ほど補修工事は不要というイメージがあるが、実際には細かい問題が出てくる。その中で運転しながら色々調整し、最終的に適正な運転を模索することになる。

工事期間中に試運転期間を設けているが、それだけでは対応できないので、竣工後3年間で瑕疵担保期間とし、機械的な要因の故障などは全てメーカーの責任において修理を行う契約をしているため、期間中に不具合などを全て是正し、3年後以降に適正運転ができるようにしている。今はある意味長期的な試運転期間と言える。

他のメーカーであったとしても、細かい問題は必ず出てくる。

○委員

小学生とか見学に来るのか。

○川崎市職員

小学校4年生の社会科の授業の一環として、そういうプログラムがある。たまに自治会とか町内会で見学に来る場合もある。

○委員

重曹を使っているという話を聞いたが。

○川崎市職員

以前の施設では、消石灰を使っていたが、さらに効率よく硫黄酸化物等を除去することが出来る重曹を採用した。

○委員

沼津市でも川崎市同様住宅が近くにあるところに施設を整備するので、その辺りの配慮が必要になると考えている。

○川崎市職員

そのために煙突も高くしている。そうすれば、基本的に真下に落ちることはない。

以 上